

令和元年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム にこピア浄法寺

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300019		
法人名	株式会社 サンメディックス		
事業所名	グループホーム にこピア浄法寺		
所在地	〒028-6911 岩手県二戸市浄法寺町上前田34番地		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和2年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元小学校を改装して福祉施設として活用している。元小学校という事もあり建物内のスペースは広く天候に左右されずご利用者様は軽運動ができる環境である。施設からの景色も良く景色を楽しんだり、施設周辺を散策したりと安全に生活ができる環境である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0391300019-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山間部の田畑に囲まれた集落の中心部に位置し、周辺には公民館、商店、農家などがあり、自然や生活環境に恵まれている。施設は元の小学校を活用し、小規模多機能ホームが併設され、機械浴槽の利用やカラオケやイベントの開催など、効果的に業務を遂行している。運営にあたっては、グループホームの理念のもと、本年度の方針を定め、職員との信頼関係を醸成し、家庭的な雰囲気の中、利用者の意向に沿った、より充実した介護サービスを提供している。また、運営推進会議の助言により、地区の消防団の防火演習(放水訓練)の会場として敷地を提供するとともに、地区の避難場所として、地域の一役を担っている。中学生との交流や地域婦人団体のボランティアの受け入れなど、地域との交流に力を入れている。さらに、職員の提案を随時受け入れ、ユニホームの更新や防災用ヘルメットの整備、運動会やバイクの実施など、業務の改善に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年2月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和元年度

事業所名：グループホーム にこピア浄法寺

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年事業計画を作成する際、その年の共通理念をつくり活動計画に沿って活動をしている。活動内容については毎月評価をして見える化とし、共通意識をもったうえで業務を行っている。	グループホームの理念のもと、本年度の方針を定め、職員会議などを通じて職員間で共有し、「言葉づかい」「笑顔」など職員それぞれの目標を持って、より充実した介護サービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事への参加、余興ボランティアの招待と地域資源を活用して交流を深めている。	中学生は踊り、肩もみ、地域の婦人団体は紙芝居とボランティアとして来訪し、住民が庭の桜の枝の剪定を行ってくれる。事業所としても、地域のお祭りに参加するなど、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加、学生の利用者との交流と認知症利用者の理解について直接関わりをもち認知症理解に努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で近況報告をしてメンバーより意見を頂戴して運営に役立てている。	委員の助言で事業所敷地を地区消防団の防火演習の会場として提供しているほか、利用者の生活状況を観察する機会を設け、現場を理解いただいた上で、ボランティアの受け入れや地区の祭りへの参加など、様々な助言をいただき、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	渉外活動を通じて利用者情報の伝達、施設状況を伝達している。他に介護情報について情報共有をしており、近況の把握に努めている。	市主催の説明会や研修会に出席するほか、要介護認定申請や生活保護関係の届出の際に、担当者から指導等を得ている。また、防災ラジオでも行政情報を入手している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書で身体拘束を実施しない旨を文章化している。実践される場合についても家族へ説明をしたうえで行う事としている。職員については身体拘束委員会を設立して勉強会を通じて知識の教養に繋げている。	管理者、ケアマネ、リーダーによる委員会を開催し、協議内容を職員に周知しているほか、派遣研修会の復命や事業所作成資料を用いた研修会、勉強会を通じ、趣旨の徹底を図っている。2階のドアにはセンサーを付けているが、1階の玄関は夜間以外は施錠していない。夜間の離床確認用の鈴を利用者数名の布団に付けている。	

【評価機関：特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止勉強会を企画し、虐待防止知識の教養、実践に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について勉強会を企画して知識の教養に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については契約書、重要事項説明書をもとに説明をして理解して頂いている。不明な点を確認しながら説明をしており納得をして頂いたうえで利用をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議議事録を玄関に設置し、外部が閲覧できるようにしている。家族等の意見については苦情、要望を設置して要望を受けられるようにしている。	家族が受診等で来所した際に意見等を聴き取っているほか、居室担当の手書きメモを記載した利用者ごとの「にこにこ」を毎月発行して生活状況等を知らせ、併せて家族の意向を伺っている。掃除、洗濯たたみ、シーツ交換などのお手伝いや裁縫、花への水遣りなど、利用者の要望に対応している。	利用者個々の情報のみの広報誌を送付しているが、事業所の行事や事業内容を掲載するなどして事業所全体の活動もお知らせし、家族意見の把握に活用する取り組みを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常で職員からの要望の受け入れ。または職員会議での発言の場を設け、職員の要望を可能な限り実践に繋げている。	何でも話しやすい雰囲気を作りながら、職員から提案があったユニホームやヘルメットの整備、運動会やバイキング形式の食事の実施、勉強会の立案、勤務体系の変更、外出などを具体化し、業務に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、雇用契約書をもとに説明をして理解をして頂いている。変更があった際は、変更点を各職員へ伝達して現状の理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の場をつくり可能な限り外部で研修参加をしている。他、内部研修では職員による研修企画、勉強会進行により伝える力も養っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例会、近隣事業所からの情報収集により現状把握に努めている。人事交流により新たなネットワークの構築にも繋がっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では利用者様が不安にならぬようマンツーマン対応をしており、利用者の要望、考えをもとに支援をしている。他、他利用者様との関係構築の為職員が間に入り利用者様同士が交流できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を通じて要望、不安な点、不明な点について話し合っ理解をして頂いたうえで利用をして頂いている。初期段階では生活状況を電話、または広報を通じて状況報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様希望を家族様へ伝え利用者様の目標設定をたてている。可能な限り自立度を高められるよう支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他利用者との関係構築にあたり職員が間に入り共通話題を中心に他利用者とは話をする機会をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主に広報を通じて家族と施設の繋がりが疎遠にならないようにしている。利用者様からの要望については家族へ電話連絡をして、孤独感を感じないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関係が疎遠にならぬよう散髪の依頼、広報での面会依頼等、利用者様と家族様と関係が途切れないよう働きかけをして協力関係の継続を意識している。	季節の衣類の入れ替えなどで家族の面会はたびたびあり、兄弟姉妹、友人知人が一緒にお土産を持って訪問し居室で談笑している。地域の祭り(一戸や二戸浄法寺)には必ず出掛け、ナニヤトヤラを踊ったりし、その度に地域との繋がりを実感している。小規模多機能ホームの利用者ともカラオケなどで交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士を隣席にしたり、ホールにソファを用意して利用者同士が会話しやすい環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時に家族様との関係は終了するものではない事を伝えている。施設での生活状況についての問い合わせには情報を伝えアドバイスもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望に合わせて家族様と方向性をだし自立に向けた生活活動をしている方もいる。困難な方に対してはカンファレンスにて本人本位の支援法を模索している。	帰宅要望のあった若年認知症利用者への生活指導を継続して行った結果、帰宅を実現出来た。入居者のお手伝いや趣味の裁縫などの要望にも対応している。さらに、体重増加傾向の利用者への運動なども行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前、後と情報収集、またはカンファレンスにてその時に合った支援法を模索している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネを中心として各利用者様の担当を定めている。定期的にケアカンファレンスを行い利用者様の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを通じて今必要な支援法を模索して対応している。変化が生じた場合は家族様へ説明をして理解をして頂いたうえで支援を遂行している。	日々の生活状況を記録した資料のほか、ケアマネによるモニタリングを実施し職員会議で方向性を検討している。その上で原案を再度職員会議で確認し、家族の了承を得て計画としている。原則6か月ごとの見直しとしているが、医師の指示等や状況の変化に応じ、随時(1~3月)変更している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送り時と情報共有をしながら支援にあたっている。迅速度が高い利用者様については即日見直しを図りながら支援をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設事業所への訪問にて交流、レクリエーションの幅が広がっている。交流を図る事で知人との遭遇や新たな交流が生まれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物の同行、花等趣味趣向に合わせて外出をして地域資源の活用により利用者様の満足度向上に役立っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は利用者様、家族様の意向に合わせて対応している。状態変化が見られた場合は家族様、かかりつけ医と連携をとり情報共有をして対応している。	家族付添いの通院は2人、職員付添いの通院は7人おり、かかりつけ医を協力医に変更した利用者は5人いる。精神科や歯科への通院は家族が付き添っている。職員付添いの時は「通院録」により家族に情報を提供している。家族付添い時はバイタルや生活の様子、注意事項等の「メモ」を託して医者に提供し、家族からも情報を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常で不明な点は看護的知識アドバイスを頂き利用様の対応をしている。介護視点、看護視点と意見を総合的に判断して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院発生時、即日介護サマリーの提供をしている。病院での説明にはご家族様の他に介護職も同席して情報共有、ご家族様の不安感の緩和にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化看取りの指針を用い説明と同意を得ている。有事の際はかかりつけ医と連携をとる事としている。	重度化看取り指針を策定し入居時に家族に説明している。これまで看取りの実績はない。重度化した場合には、改めて家族に意向を確認し、病院や関係施設へ移送している。入院後に再度入居する利用者もいる。訪問看護ステーションの看護師とは、24時間連携体制を確保している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師、協力医療機関との連携により有事の際は迅速に対応している。当施設にはAEDも設置されており、定期的使用方法についても確認をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを整備しており災害時の動きについて各職員へ周知している。避難訓練では地元消防団へ協力を要請して訓練を行っている。	避難訓練は、1階にある小規模多機能ホームと共同で開催し、消防団員30名の協力による放水訓練や夜間想定訓練など年2回実施している。事業所が地区の避難場所に指定されており、地域にとって大切な施設となっている。缶詰や飲料水、米など3日分を備蓄するとともに、発電機や石油ストーブ、ヘルメットや毛布なども用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室を氏名ではなく花等の名前を表記して他者が把握できないようにしている。関わりでは接遇勉強会を通じて尊厳を遵守した関わりをとっている。	支援にあたり利用者の経歴や家柄、個性を大切にしている。居室のドアは原則閉め、ノックしてから入室などの配慮をしている。グループホーム通信「にこにこ」は利用者本人用として作成して家族に送付するなど、個人情報の保護にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話で趣味、訴えに合わせてその時に対応している。訴えがない場合は本、新聞等近況を伝え訴えを引き出すように関わりをもってしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員優先ではなく利用者様のペースを把握しており、一人一人にあったペースで日常を過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時利用者様に服の選定をして頂き外出をしている。訴えの困難な方に対しては家族様から好みの色の情報をとり情報を得た色合いの衣類を着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立立案の際、利用者様が食べたい食事、好きな食材を聞き出し献立を作成している。食事後には利用者様自ら下膳、テーブル拭きを率先して行っている。	献立は、利用者の希望を聴きながら職員が作っている。誕生日にはおやつを豪華にし、プレゼントもある。職員のアイデアでバイキング(唐揚げ・焼きそば・フランクフルト・日本そば)やお楽しみ会(好きな弁当を注文)を行ったところ好評だった。利用者2、3人が職員と一緒に食材の購入に行っており、もやしのひげ取り、皮むきや炒めもの、下膳やテーブル拭きを手伝っている。春と秋にドライブを兼ねて外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立では肉、魚、野菜と豊富に摂っていただけるよう意識をして献立を作成している。咀嚼が困難な方に対しては予めきざみにして食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員声かけ、見守りのもと口腔ケアを行っている。困難な方に対しては介助をして口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに排尿の経過を把握している。尿意について感覚のない方については定期的に声かけをして失敗を可能な限り防止している。	利用者ごとのパターンを把握し、案内、誘導をしている。自立者は2名で、布パンツ2名、布、パット併用1名、リハビリパンツ3名、紙オムツ3名である。夜間用のポータブルトイレの利用者はいない。部屋での放尿などもない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の活用、軽運動の促しをして便秘防止の働きかけをしている。改善が見られない方については医師に相談をして対処している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴日は設定しているが、入浴日には利用者のペースを重視して入浴をして頂いている。安全面に配慮しつつ、利用者様に満足していただける時間で入浴を実施している。	週2回、火曜日、土曜日の午前中に入浴している。車イス利用者は、小規模多機能ホームの機械浴槽を利用している。木曜日は清拭やシャワー浴の対応があり、他の日でも希望があれば足浴やシャワー浴ができる。歌好きな利用者同士と一緒に入浴するなど、個々のペースに合わせた入浴や時間となるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は一人一人の時間に合わせ休んで頂いている。夜間歌番組がある時は声かけをして歌番組を観覧した後に入床している時もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をもとに効果、副作用を把握して内服介助を行っている。薬変更があった際は、申し送り確認をとり情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、タオルたたみ、ベットメイキングと自分のできる方については見守りのうえで行って頂いている。買い物好きな方については買い物の同行もして気分転換にも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花の季節には買い物の同行後に花の散策に向いている。利用者様の訴えに合わせ、ご家族様に連絡ができない場合は代用して職員から連絡をして本人様と直接関わりをもつよう配慮している。	玄關脇の長いすで「ひなたぼっこ」をしながらお茶やお菓子を食べて楽しんだり、花壇やプランターの花への水遣り、散歩途中のアケビ取りを行っている。2、3人での食材買出しや利用者全員で春と夏の年2回、二戸市内へ外食ドライブに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が支払いをする際は職員ではなく利用者様より支払いをして頂きお金に触れる機会をつくっている。利用者様が所持を希望される時は要望に合わせて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話を使用したい時は公衆電話を利用して電話をしている。ご家族様より電話があった際は要望により施設電話を使用して会話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には思い出の写真を掲示して利用者様の回想に役立っている。他、共用で作成した作品を利用者様の見える所に掲示している。	食堂兼居間のホール、廊下とも天井が高く広々とし、ホールは運動会の会場にもなっている。町の文化際に出品した「はり絵」や行事や日常のスナップ写真、ボランティアで来た中学生と一緒に作った折り紙などが壁に飾られ、利用者は自分の写真や作品を喜んで見ている。ホールには、大型エアコン、ファンヒーター、加湿器、扇風機、ソファ、食卓、テレビが備えられている。6畳の小上がりには「こたつ」もあり気持ちよく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではソファを3台設置しており気の合った利用者同士が隣席で会話できるようになっている。居室についてはソファを予め設置しており気の合った利用者同士が行きかいてできるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時、利用者様の馴染みの物を用意していたとしても可能と説明をしている。アルバムを用意され回想されている利用者様もおられる。	ファンヒータと換気扇で温度が管理され、ベッド、イス、大型ロッカー、子筆筒、テレビ端子が備え付けられている。カレンダーや家族写真が飾られていたり、趣味のもの等が置かれ、気持ちよく過ごせるよう工夫されている。暑さ対策にエアコンを設置することが決まっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーの他、床も衝撃緩和材を使用しており安全面に配慮した設計となっている。他、手すりも備え付けており下肢低下な利用者様でも可能な限り自力歩行できるようになっている。		